

仏教はどこに向かう？ ～仏教書出版の最前線から～



▲築地本願寺ブックセンター

先ごろ英国公共放送BBCのサイトで「TSUNDOKU（積ん読）」という言葉が紹介され、日本が誇る文化（？）のひとつが英語にもなったそうです。今年こそは机に積まれた本を読破し、「読書の秋」を満喫するものにと考えている方も多いのではないのでしょうか。

今号では「読書の秋」にちなみ、今どんな仏教書が売れているのかを探ることに、ネット書籍販売大手のアマゾンジャパンがまとめる、人気仏教書ランキングから、売れ筋の本の傾向を見てみましょう。

売れている本の傾向

まず、「どんな仏教書が売れているのか」を探るために、ネット書籍販売大手のアマゾンジャパンがまとめる、人気仏教書ランキングから、売れ筋の本の傾向を見てみましょう。浄土真宗本願寺派総合研究所の多田修研究員がまとめたところによると、人気仏教書の内容は、「生き方」「瞑想」などが中心で、読者は特定の「宗派」への関心は低く、人物では「釈尊」が人気、また「仏事」への関心は薄い、という傾向があるということです。

もちろん、アマゾンランキングに

は中古書籍も含まれるなど、新刊の販売部数を正確に表したものとはいえないかも知れませんが、およその傾向は読み取れるのではないのでしょうか。

「宗派への帰属意識が低く、瞑想など実践を伴う仏教者」について、多田研究員はアメリカで目立っている「ナイトスタンド・ブディスト（夜の電気スタンド仏教徒）」との関連性を指摘します。「ナイトスタンド・ブディスト」とは、①仏教的な行爲を行うにもかかわらず、②特定の仏教寺院やセンターとは深い関係を持たず、③自分が「仏教徒」であると断定していない、仏教への「同調者」を、アメリカ宗教を専門とする米ノートルダム大のトマス・トゥイー博士が名付けた分類です。著書『アメリカ仏教』（武蔵野大学出版会）でこの言葉を紹介したケネス田中・武蔵野大学名誉教授は「日本でもすでにナイトスタンド・ブディスト現象は起きていますし、今後さらに進むと思います」と述べています。

出版界の反応は？

では出版社の人々は、この傾向についてどのように見ているのでしょうか。

うか。浄土真宗関係の本、あるいは仏教書を出版しているいくつかの出版社の方にお話を伺いました。

自照社出版の檀特隆社長は、「瞑想などに対する関心というのは、私が仏教書の編集に携わったころ、34、5年前から変わらざるを得る傾向だと思っています」と言います。

一方、春秋社の佐藤清靖さんは、「以前から仏教書は生き方の本です。それはその通り。ただ生き方の内容、苦勞とか、生きづらさというのは時代によって違ってきていると思うので、単純に生き方ということだけで考えてはいけないのかも知れない」と内容の違いについて言及しました。

また、「仏事に関心がない」ということに関しては、法蔵館の戸城三千代編集長が、「逆に仏教の教義には興味がないけれども、音楽として聲明や儀礼には興味があるという、感性派も一般の方の中にはいらっしゃる。むしろ、昨今は若い方にその傾向が強いかもしれません」と指摘します。

やさしくカンタンな本から

本願寺出版社の山本賢淳さんは、読者が「極化していることを前提に、目指す方向性について語ってくれま

した。「専門的な知識、考察に関する本は以前から求められていたと思いますが、若い人に向けては、かしこまった本だと手に取りづらい。ライトで分かりやすい、とっかかりになる本を作っていけたらと思います」。分かりやすい、という部分で言えば、法話に関する本も当てはまります。探究社の花岡大詩さんは、法話を出版する上で、書き言葉の硬い内容は好まれないと話します。「やさしくはなかなか書けない。話すのでしたらなかなか良いんですけどね。文章にすると難しくなりがち」と話します。

「カンタン」という題を冠する本についてのお話です。法蔵館の戸城編集長は、大來尚順さん著『カンタン英語で浄土真宗入門』の出版記念イベントでの話をしてくれました。「トークイベントでは、お客さんからとても熱心に質問の手が挙がったんです。結局、何かっていうと、真宗以前に仏教の基本的なところがモヤモヤとよく分かっていなかった。こういった基礎的な本を出してあげることで、やっと恥づかしげなく聞けたと、そういうことだったみたいなんですよね」。

入門書と学術書の両方を、信念を持って作り続ける出版社もあります。

永田文昌堂の永田唯人さんは、「うちがイメージ的に言えば、学術書と少し硬い表現で書かれた法話の間ぐらいの本が多いので、ちょっと内容的には難しいのかも知れません。ただ、それだけ濃い内容とも考えられます」と話します。

このように各社工夫をこらして、専門書・学術書につながるような導入となる本を取りそろえているようです。

多様化社会の中で

「今後求められる仏教書」について春秋社の佐藤さんは次のように述べています。「仏教書のあり方自体、一律に語るのが難しいですね。非常に多層化・多様化していますから、たとえば関心の高いテーマを扱っていても、必ず本が売れるわけではありません。同じように書いていてもこちらの本は売れるけど、あちらの本は売れないとか、それが現実ですよ」。

法蔵館の戸城編集長も「あくまでも出版社でしかないで、こういう本を作っていくってあげましょ、というふうな思いには極力ならないようにしています」と言います。また、「（仏教文化を伝える）風を『吹

かせる』という表現があるじゃないですか。でもどちらかというと、私もあなたもみんな風だと思っています。版元も風だし、読者も風だし、著者も風だと思っています」と続けました。

現代社会は多様化の時代といわれています。趣味も娯楽も、また人々が求める本も多様化しています。そのような中で、一概に「仏教に何が求められているか」を導き出すことはできないのかも知れません。

読者同様、著者のあり方も多様化しています。ブログやSNSなどを利用して、手軽に全世界に情報を発信することができ、読者とも直にやり取りをして、また新たな考えを獲得することもできます。昨年11月にオープンした、築地本願寺ブックセンターの販売部数上位のうち何冊かは、著者がSNSなどで告知した相乗効果ではないでしょうか。

築地本願寺ブックセンターは、築地本願寺境内のインフォメーション棟2階にあり、浄土真宗の本に限らず、仏教や築地本願寺に関する書籍約3000冊を揃え、年中無休で営業しております（営業時間10時～17時）。この秋、築地本願寺にお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

（文・星 顕雄）

平成三十年 築地本願寺 **報恩講** 11月11日(日)～16日(金)
 速夜法要より 日中法要まで
 親鸞さまの恩徳に報謝する法要です。皆さまぜひお参りください。

法要	晨 朝		日 中		速 夜		初 夜	
時間	6:30	引き続き	9:00 9:50	引き続き	12:45 13:15	13:20 13:50	14:00	引き続き
行事	勤行	布教	御示談	法要	布教	堂内布教	法要	布教
場所	本堂		開法ホール	本堂	本堂	本堂	本堂	本堂
11(日)							大師影供作法 宗務長挨拶 小村賢昭師 帰敬式	正信偈 草譜六首引 御絵伝 絵とき布教
12(月)	礼讃 日没偈	小村賢昭師	相馬一意師	無量寿経 作法	小村賢昭師	成田善真師	奉讃大師 作法	小村賢昭師 帰敬式
13(火)	礼讃 初夜偈	小村賢昭師	相馬一意師	宗祖讃仰 作法 (音楽法要)	小村賢昭師	楽友会 コーラス 橋本正信師	浄土法事讃 作法	小村賢昭師 帰敬式
14(水)	礼讃 中夜偈	松嶋智謙師	相馬一意師	阿彌陀経 作法	松嶋智謙師	横内教順師	五會念仏 作法	松嶋智謙師 帰敬式
15(木)	礼讃 後夜偈	松嶋智謙師	相馬一意師	二門偈 作法	松嶋智謙師	パイプ オルガン 演奏 白川淳敬師	廣文類作法 御門主様 御親修 御俗姓拝読 御親教	引き続き 帰敬式
16(金)	正信偈 行譜 (五十六巻)	松嶋智謙師	布教 《本堂》 松嶋智謙師	報恩講 作法 御門主様 御親修	宗務長挨拶	引き続き 帰敬式《本堂》		

お 斎 とき 日程 11月12日(月)～16日(金) 11:30～13:30
 懇志額 お斎膳 … 10,000円以上 / お斎弁当 … 2,000円以上
 会場 お斎膳 … 第一伝道会館1階「振風道場」 / お斎弁当 … 第二伝道会館1階「蓮華殿」・2階「瑞鳳」
 ※1 郵便振替志納入用紙にご記入いただき、お申し込みください。 ※2 当日のお申し込みも可能です。 ※3 お斎材料を運納いただける場合は、築地本願寺までご連絡ください。

抹茶席 日程 11月11日(日)～16日(金)
 懇志額 10,000円以上 ※10,000円以上の懇志でお斎膳と抹茶席のお扱いがあります。
 会場 第一伝道会館2階「紫雲」

めぐみの参拜式(七五三)

日程 11月23日(金・祝) 受付時間 12:00～
 会場 本堂 参拜時間 13:00～13:30
 申込先 首都圏開教推進部 ※ ホームページよりお申し込みください。

仏教何でも彼んでも相談

日程 11月12日(月)～15日(木)
 時間 9:30～16:00
 会場 境内特設テント

関連行事 「報恩講コンサート2018～親鸞聖人を讃えて～」

日程 11月4日(日) 会場 本堂
 時間 【開演】14:00 【終演】16:00 内容 音楽法要・仏教讃歌・法話
 (主催) 築地本願寺合唱団楽友会 (協賛) 参加合唱団 (後援) 築地本願寺

問い合わせ | 築地本願寺 東京都中央区築地 3-15-1 TEL: 03-3541-1131

本願寺出版社
 浄土真宗本願寺派の出版部門で、新聞「本願寺新報」、雑誌「大乘」や『浄土真宗聖典註釈版』などを刊行する。
 〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル
 TEL0120-464-583 FAX075-341-7753
 ※西本願寺内安福殿1Fの「本願寺ブックセンター」で関連書籍を購入できます。

釈徹宗・大平光代
『歎異抄はじめました』 (1400円)
 「書籍による伝道布教が私たちの主な活動ですから、その中で紹介するのであればこちらがおすすです。話し言葉で歎異抄に触れていきますので、専門書よりははるかに分かりやすく、入門書として最適です」(山本賢淳さん)

探究社
 1974(昭和49)年に京都で創業し、主に真宗関係の仏教書の出版、自費出版、自叙伝等1000点以上を刊行する。
 〒600-8824 京都市下京区二丁目6
 TEL075-343-4121 FAX075-343-4122

専應寺・中路孝信 祐西寺・松下雅文
『現代語訳 正信偈』 (120円)
 「これはね、訳がものすごくやさしいんですよ。お寺の住職ですけど、著者は国語の先生だったので。そういう関係でものすごくやさしいんですよ。これよく出ます」(創業者・花岡大詩さん)

法蔵館
 慶長年間創業、「日本文化の根底をなす仏教の研究書と現代将来を通じて人類を救済し得る仏教書の出版」を理念に掲げる。
 〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
 TEL075-343-0458 FAX075-371-0458
 ※1Fで書籍を購入できます。

大来尚順
『カンタン英語で浄土真宗入門』 (1200円)
 「書店に並んで1カ月くらいですけど既に重版が決まって。いつもとぜんぜん違う書店さんからご注文をいただいている。浄土真宗の入門書としては、英語をツールとすることによって逆に分かりやすくなっています」(戸城三千代編集長)

番外編・築地本願寺ブックセンター店員のオススメ本
 築地本願寺境内のインフォメーションセンターは、築地本願寺の総合案内窓口としてさまざまな情報を提供しています。カフェ、オフィシャルショップ、ブックセンターなどを併設しております。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

ケネス田中著・伊藤真訳
『アメリカ流 マインドを変える仏教入門』 (春秋社・1800円)
 「アメリカのCATVで放送された仏教に関するシリーズを書籍化したもので、随所に身近な例えが用いられていて、読者の興味を引き出す本です。私自身も築地本願寺GINZA SALONや英語法座などに出させていだいて、その中でもケネス先生のお話がとても分かりやすかったので興味を持ちました」(店員の松前瑞さん)

今回取材した
仏教書出版社のオススメ本紹介
 (価格はすべて税別)

自照社出版
 1996(平成8)年に京都で創業。梯實圓和上らの『芦屋仏教会館講話集』シリーズに代表される浄土真宗の法話などを刊行する。
 〒604-8164 京都市中京区骨屋町143 G&Gビル 4F
 TEL075-251-6401 FAX075-251-6416

竹中尚文
『七日参りのお話—大切な人を送った人へ—』 (1000円)
 「姫路のご住職さんなんですけど、葬儀、中陰に関してはおろそかにしたくない。現場で今まで一番印象に残った七日七日をお書きいただいているということで、多く買っていただいています」(權特隆行社長)

ながたぶんしょうどう
永田文昌堂
 慶長年間創業。京都の西本願寺と東本願寺の間に店を構え、龍谷大学教授などが書く学術書に強みを持つ。
 〒600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入
 TEL075-371-6651 FAX075-351-9031
 ※同所で書籍を購入できます。

松塚豊茂
『教行信証を生きる』 (1800円)
 「京都大学出身の先生で、宗教哲学を勉強された方です。で、哲学という視点からの本。正直これは、我々の予想とは反して反響がある。アマゾンさんからも検索をよくいただいているのがこの本なんです」(永田唯人さん)

しんじょうしゃ
春秋社
 1918年創業以後、宗教書を中心に思想、哲学、心理、文学評論、音楽、経済経営などの各部門の専門書を刊行し、仏教書では『決定版・中村元選集』や『親鸞全集』を刊行する。
 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-18-6
 TEL03-3255-9611 FAX03-3253-1384 (営業部)

中村元
『中村元の仏教入門』 (1600円)
 「仏教の基本的なお話を中村先生の非常に広い視点と視野から、臨場感豊かに語ってくださっている。初めて仏教に触れる人にはとてもいい内容の本だと思います。東方学院での講義録です」(編集部佐藤清靖さん)